

ヒノデメタル株式会社

打痕等不良削減による原価低減及び
軽量化薄肉化する新規受注獲得による売上確保

ハンガー形式で衝突回避

前身の旭出工場時代から数えれば、1世紀以上の歴史を誇る鋳物メーカーのヒノデメタル社。事業品目はトラックやバスの自動車部品が8割、フォークリフト、ブルドーザーなど建設機械部品が2割を占める。並み居る同業

めた鋳型を取り除く。ショット・ブラストという装置を使い、投入した製品に大量の鉄球（直径約1ミリ）を当て、付着した砂を落とす。製品はドラム式洗濯機に入れられた洗濯物のようにゴロゴロ回転し

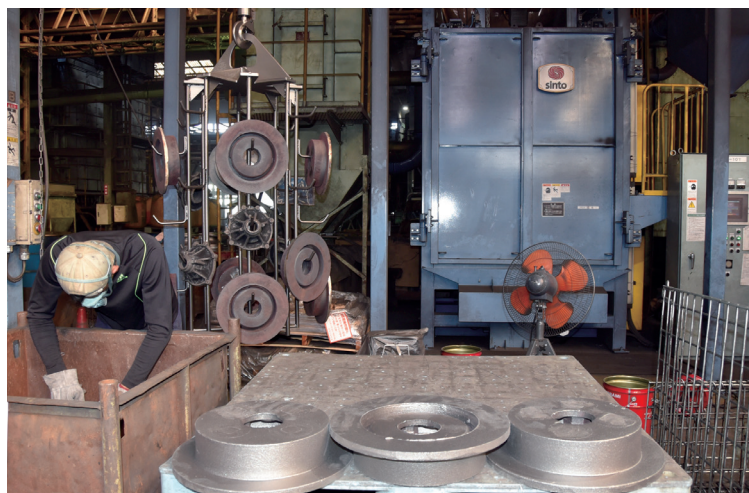
た状態で鉄球を浴びるため、一部に打痕が生じるのは避けられない。

こうした症状を極力減らそうと同社は2013年10月、ものづくり補助金で新しいショット・ブラスト（モノレーン・ブラスト）を導入した。この装置は製品を一つ一つハンガーにぶら下げた状態で鉄球を当てるため、製品同士がぶつかり合うことがない。

新型ショットブラストは、打痕の心配がなかったり、小型でハンガーに掛けられなかったりする製品以外（全体の3分の1）に導入。これによりショット・ブラスト工程での打痕不良の大半が改善された。

これからの鋳物業界を生き残るには肉が薄く、軽量化した製品をどれだけ原価を抑え

悩みの種は、製品同士がぶつかり合うことで発生する打痕だった。鋳物製品は冷えて固まった段階で砂を固



新型のショット・ブラスト（中央右）。製品は中央左のようにハンガーに掛けられた状態で装置内に入れられる。手前は鋳物砂を除去した製品

■ヒノデメタル株式会社

本社：川越市下赤坂大野原606

代表者：代表取締役 小林貞之

設立：2006年6月

資本金：3000万円

従業員数：65人

電話：049（264）2600

メモ▶ 前身は1918年創業の旭出工場。1974年7月、都内から現在地に工場移転。倒産した旭出工場の経営を広島県福山市の福山鋳造が引き継ぎ再スタートした。

て作れるかが勝負。たださえ大量のエネルギーを使う鋳物業の拠点は海外に移り、国内では工場閉鎖が相次ぐ厳しい状況が続く。小林貞之代表取締役は「軽量化、薄肉化の流れにしっかりと対応し、新規受注および売り上げの確保に全力を挙げたい」と語る。